

# 災害時保健所活動体制強化事業

南多摩保健医療圏

実施年度 開始 令和2年度 終了(予定) 令和4年度

## 背景

台風被害など災害発生頻度が増す中、当所では平成30年度から2か年計画で管内3市における避難所の体制整備支援を行ってきた。市における災害時保健師活動の体制整備のきっかけとなるなどの効果があったと共に、市との連携強化につながった。振り返りの中で、避難所における保健衛生活動の更なる強化、それを支える所内の体制整備の必要性について3市及び所内で共通認識を得ることができたため、引き続き災害時の体制強化を図ることとなった。

## 目標

- <計画全体の目標>
- ・各市の避難所運営における保健衛生活動の円滑な実施に係る支援
  - ・保健所における災害時活動体制の具体化

## 事業内容

- <対市支援>
- 管内各市の避難所運営の質の向上のための研修等の実施(令和2年度から4年度まで)
    - ・避難所における環境調査の実施
    - ・避難所における感染症対策研修の実施
    - ・新型コロナウイルス感染症流行下における濃厚接触者等の避難についての市との意見交換
  - 避難所アセスメント訓練の手引きの作成・実施(令和2年度から4年度まで)
- <所内体制の整備>
- 災害時における保健活動に関する訓練・研修の実施(令和2年度から4年度まで)
    - ・災害時の初動体制の整理
  - 保健衛生ツール(在宅避難者向け衛生・健康管理ガイド)の作成(令和3年度)
  - 所内マニュアルの改定(令和4年度)

## 評価

当初計画では、避難所アセスメント訓練の定着化を目的とした手引きを作成する予定としていたが、令和2年度に引き続き、令和3年度も新型コロナウイルス感染症の流行に伴い急務となったコロナ禍における避難所の感染症対策(保健衛生活動)に重点をおいた事業実施とした。これにより、市における避難所運営に係る関係部署(健康主管課、防災主管課、教育主管課)における感染症対策への理解を深めることができた。

また所内体制については、令和2年度に整理した大型台風接近時の取組事項について、実際の台風接近時に実践することにより確認を行うことができた。

更に住民向け在宅避難者向け衛生・健康管理ガイドを作成し、所ホームページに掲載することにより災害時の備えについての普及啓発を図ることができた。

## 問合せ先

南多摩保健所 企画調整課 企画調整担当  
 電話 042-371-7661  
 ファクシミリ 042-375-6697  
 E-mail S0000344@section.metro.tokyo.jp

《令和3年度事業実績》

令和3年度 事業実績

令和3年度											
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	5/26~31 日 稲多 野 城摩 市 市市 訪 訪訪 問 問問		7/6 避難所における感染症対策（研修） 所HP「災害時に備えてください」の掲載	8/2 避難所環境調査	延期 9/29 ～ 台風16号対応	10/4 避難所環境調査		12/8 所内防災訓練			
災害時所内対応(新型コロナウイルス患者・濃厚接触者対応)の検討			保健衛生ツールの作成								

南多摩

1 令和3年度の事業内容

- (1) 各市の避難所運営における保健衛生活動の強化（市支援）
- (2) 所内初動体制の強化
- (3) 保健衛生ツールの作成

(1) 各市の避難所運営における保健衛生活動の強化（市支援）

① 研修「避難所における感染症対策について」の実施

日時：令和3年7月6日（火曜日）午後2時から午後4時まで

会場：南多摩保健所新館1階 講堂

参加：避難所運営に関わる日野市、多摩市、稲城市職員（健康・避難所運営・防災主管部署）  
24名

新型コロナウイルス感染症の流行が続く中、感染症対策を実施しながら適切に避難所を運営するため、台風シーズンを前に、管内3市の健康主管課・避難所運営主管課・防災主管課の職員を対象に、研修を実施した。保健所職員から、感染症対策全般に係る基本的事項や、新型コロナウイルス感染症対策において重要な換気について講義を行った後、厚生労働省DMA T事務局千島佳也子氏から「避難所における感染症対策」として、これまでの被災地における支援経験を交えながら講義を行っていただいた。参加者からは「具体的な動きをイメージしながら考えることが出来た」「避難所運営マニュアルを作成する上で、参考になることばかりであった」等の評価を得ることができた。

② 避難所における環境調査の実施

新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、多くの避難者が集まる避難所での感染症対策の徹底が急務となった。このため当所環境衛生担当職員による避難所の換気調査を令和2年度から実施しており、令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の濃厚接触者等の専用避難所予定施設1か所の換気調査、及び保健師による感染症対策調査を実施した。台風シーズンの前に実施する予定だったが、新型コロナウイルス感染症の第5波と重なったため、延期しての実施となった。

実施日時：令和3年10月4日（月曜日）

実施場所：管内濃厚接触者等専用避難施設 1 か所  
 調査内容：換気状況、感染症対策状況

当該施設は、要配慮者及び新型コロナウイルス感染症濃厚接触者の避難場所と想定されており、施設内での動線や避難者の滞り場所において調査を実施した。

濃厚接触者は、建物の外で受付を行い、専用の入口へ案内することになっており、その他の避難者との動線は交わらないよう設定されていた。換気状況調査では、空調方式、実際の換気量や空気の流れを確認した上で、それぞれの部屋の状況に応じたサーキュレータの設置など効果的な換気方法について助言を行った。また保健師からは、消毒体制の整備や、防護服の着脱場所、トイレの使い方等についての助言を行った。

### ③ 新型コロナウイルス感染症流行下における濃厚接触者等の避難についての市との意見交換

濃厚接触者の避難については、令和2年度から市と協議を行っており、新型コロナウイルス感染症の流行が続く中、令和3年5月に防災基本計画(国)が修正され、自宅療養者の避難について関係機関の連携協力が明記されたことから、改めて3市を訪問し、発災時の濃厚接触者・自宅療養者の避難について、意見交換を行った。市からは健康主管課と防災主管課の担当者が出席した。協議の結果、積極的疫学調査の際、看護職から本人に発災時の避難の考え方について説明するとともに、所のホームページにも情報を載せることとした。

所内からは、災害に備えた準備内容や避難についての問い合わせ先をホームページなどでお知らせできる仕組みづくりが必要であるとの意見もあり、防災を担う市との協議が引き続き必要となった。

このような中、令和3年9月から、各市に自宅療養者の情報提供を行う仕組みができ、これにより市から自宅療養者へのアプローチができることとなった。その後、自宅療養者に加えて濃厚接触者の情報も提供できるよう都で検討が始まった。

更に保健所ではSMS(ショートメッセージサービス)を活用し、自宅療養中の新型コロナウイルス感染症患者に対し、災害時の備えについても注意喚起を行うようにした。

災害はいつ起こるかわからないため、引き続き市との連携を図りながら対応していく。

研修の様子



災害時に備えてください(所ホームページ)

(2) 災害時の保健所の初動体制の整理と実践

～所内初動体制の強化～

大型台風が接近した場合における初動体制(案)

～令和元年の台風15号及び19号の取組から～

●台風到達前

	I 所内対策会議の開催	II 庁舎の防災対策	III 管内3市の状況把握等
事前		■ 危険物の確認	
3日～2日前	第1回開催 ●パンパ一幹部会+課長代理(保健・企画)出席 ●検討事項 ・その時点における各課からの状況把握・問題認識の報告 ・次回対策会議日程を定める	<input type="checkbox"/> 庁舎周辺の巡回(管理課・保健担当) <input type="checkbox"/> 危険物の巡回・撤去 (中野にない場合は下野) <input type="checkbox"/> 災害時の備品・薬品準備 ●エコーも参照 <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 避難所設置状況 <input type="checkbox"/> 停電時の応急処置要員の対応 <input type="checkbox"/> 【巡回支援(巡回対象者)】 ・対象者情報の事前収集、対応方法確認の実施状況把握 <input type="checkbox"/> 緊急工かけ可能性への対応状況 <input type="checkbox"/> 緊急工かけ可能性をアセスできるより準備
連日～前日	第2回開催(臨時前・最終回) ●検討・報告事項 ・その時点における各課からの状況把握・問題認識の報告 ・庁舎の防災対策状況の報告 ・今後(夜間・休日等の場合)連絡体制確認	<input type="checkbox"/> 庁舎周辺の巡回(管理課・保健担当) <input type="checkbox"/> 危険物の巡回・撤去 (中野にない場合は下野) <input type="checkbox"/> 停電時の備品・薬品対応(非常用電源工)の準備 必ずに備わっているが確認	◇市・保健所では対応できない部分を確認 【情報収集(3市保健所連携先にて)】 ・避難所生活を過ごされる方々の健康被害に関する対応 ・洪水、浸水などの水害時の衛生対策と消毒方法 ・保健所管内各市の避難所確認について

当所では、令和元年の2つの大型台風災害をきっかけに、大型台風が接近した場合における初動体制(案)を作成している。

大型台風の接近は、天気予報により1週間程度前から情報把握ができるため、フェーズを「台風到達前」と「台風通過後」等に分け、内容は「所内対策会議」、「庁内の防災対策」、「管内3市の状況把握等」の3つに分け、見える化を図った。

令和3年9月、一時は猛烈な勢力となった台風16号の接近に伴い、この初動体制の「台風到達前」のフェーズに係る取組を実践した。

台風最接近予報の3日前に第1回所内対策会議を開催し、各課から庁舎の防災対策、避難所の開設状況や要支援者への対応について報告や確認を行った。第2回所内対策会議では、ハザードマップ上にいる新型コロナウイルス感染症患者への連絡状況や停電に備えた対策の確認を行った。台風最接近予報の前日となった第3回所内対策会議では、新型コロナウイルス感染症患者対応の確認のほか、台風による職員の怪我や庁舎への被害が発生した場合の報告についても確認を行った。

最終的には進路が東へ逸れたため、影響はなかった。

今後も、この初動体制(案)をもとに実践を重ね、ブラッシュアップしていくことで対応の充実を図っていく。

所内対策会議のクロノロジー①

時間	From	To	内容
9:28			第1回所内対策会議開催 ○各課報告 ・企画の台風最新状況 ・監視ポイント無し ・保研 20(1)の対応 ○庁舎防災対策 ・燃料物の確認 ○管内3市状況把握 ・避難所設置状況確認(福田)
			10:10 清
			10:30 清

所内対策会議のクロノロジー②

時間	From	To	内容
9:40			第2回所内対策会議 ○各課報告 ・企画 庁舎点検状況報告 ・保健 監視ポイント無し ・保研 20(1)の連絡終了 監視ポイントP ○防災対策(庁舎) ・窓ガラスの下 ・排水口清掃済み ○連絡体制 ・通電済み ○非常時センター確認依頼
	本部	各課	10:00 清

所内対策会議のクロノロジー③

時間	From	To	内容
9:45			第3回所内対策会議 ○管内3市の状況把握 ・福生市のHPで20(1)の連絡先を把握 ・監視ポイント 避難所開設状況 関係市から情報収集済み ・日野市のHPで1名HPの上
	本部	各課	・出張先・出張中の場合、自己環境の把握 報告済み ・土曜日出勤者の欠席は福生市へ連絡する
			(石)
			(石)

### (3) 保健衛生ツールの作成

～ウェブサイト「災害に備えた準備を『在宅避難者の衛生・健康管理ガイド』」の作成～

#### ① 作成の背景

新型コロナウイルス感染症の拡大により、多くの方が在宅避難を選択する場合がございます。

そのため電気や水道、ガスが止まった状況下であっても、在宅で健康に過ごすために、普段の生活の中で備えておきたい事柄と、被災時の対応について、保健衛生の立場から解説するウェブサイトを作成しました。

#### ② 検討体制

生活環境安全課の各担当（薬事指導、環境衛生、食品衛生、保健栄養）1から2名で構成するPTを中心とし、各担当間で情報共有を図りながら検討を進めた。

なお、被災した際にすぐに検索・活用できるようウェブサイトにより発信するデジタルツールを作成することから、紙での情報共有は極力控え、共有フォルダやメールでデータ等をやり取りする方法をとった。

#### ③ 検討過程

PTでの検討会議を4回実施し（図1）、在宅避難に特化し、日頃の備えと災害時の対応に分けて解説すること、要配慮者向けの内容を盛り込むこと等のアウトラインについて協議し、共通認識を持って各担当の専門分野を分担して作成した。国や東京都などで既に公開している内容については、該当サイトへリンクを貼り、そこから閲覧できるようにし、短時間で視覚的にイメージしやすいレイアウトを心掛けた。

また、作成するコンテンツの色調やデザイン、レイアウト、語調などを整え、統一感があり識別性が高い構成とするとともに、被災時にも閲覧しやすいスマートフォンでの表示を意識し、上下のスクロールで視認できる構成とした（図2）。

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
令和3年度取組	◎ 第1回 検討会議		○ 第2回 検討会議 (紙上)	◎ 第3回 検討会議	◎ 第4回 検討会議		☆ 公開		
		項目出し ツール作成		CMS案		所内意見 募集			

【図1】検討スケジュール



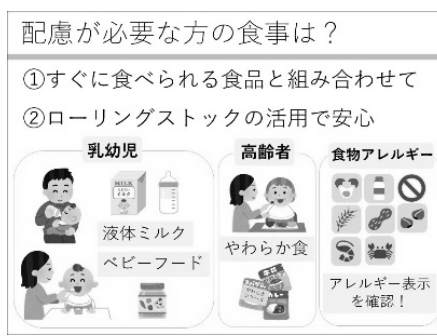
【図2】スマートフォン表示例

#### ④ コンテンツの概要

##### ア 平時の備え

日頃の備えとして、家庭備蓄品を例示し、各人の状況に合わせて3日から1週間分を、使ったら買い足すなどの工夫で、常にストックするよう促した（次ページ図3、表1）。また、同内容を具体的にイメージできるようイラストで例示した（図3、左図）。

また、災害時に特別な配慮が必要となる、乳幼児、妊産婦、高齢者、摂食嚥下が困難な方、慢性疾患の方、食物アレルギーの方がいる家庭で、どのような点について注意したらよいかについても解説した（図3、右図）。



【図3】『平時の備え』ウェブサイト例

【図3】【表1】家庭備蓄用品リスト（平時の備え）

品名	種類	内容
水		2L×12本～（大人1人2週間分）
光源		ランタン、ヘッドランプ
電源・バッテリー		ソーラー充電器、手回しラジオ・発電機、乾電池
熱源		カセットコンロ、カセットボンベ
食品	主食	米、カップ麺、乾麺、パックご飯など
	主菜	レトルト食品、缶詰など
	副菜・その他	日持ちする野菜類、乾物、野菜ジュース、調味料、フリーズドライスープ、菓子類、嗜好飲料など
生活用品	トイレ	簡易トイレ、トイレトーパー、消臭スプレー、消臭袋、大人用おしりふき
	体の清潔保持	体拭き用ウェットタオル、口内洗浄液、
	食器や手指の清潔保持	ラップ、アルミホイル、ポリ袋、生ごみ用消臭袋、キッチンペーパー、ウェットティッシュ
	咳エチケット	マスク
	季節用品	使い捨てカイロ、うちわ、虫よけ剤
	薬類	常備薬、経口補水液、ビタミン剤
	女性	生理用品、ライナー
	高齢者	入れ歯用洗浄剤、吸水パッド
	乳幼児	液体ミルク、ベビーフード、おむつ

### イ 被災時の対応

災害が発生すると水道や電気などのライフラインが止まり、トイレや冷蔵庫、ガスコンロ等が使用できなくなることが想定される。そこで、衛生的かつ安全に避難生活を送るためのポイントとして、トイレ使用前の点検方法や簡易トイレの製作方法、室内の換気、食中毒予防対策を解説するサイトを作成した。また、より快適に避難生活を送るために、ガスを使用しない調理・加熱方法等についても紹介した。更に、災害発生直後は、交通網が麻痺してかかりつけの病院に行けないなど、様々な理由で「いつも飲んでいる薬」が手元にない状況が想定されることから、被災時の薬の入手方法についても紹介するサイトを作成した。（図4）

### ⑤ 評価と今後の展開

当サイトは、多くの人がアクセスできるよう当保健所のトップページに掲載するとともに、当所発行広報誌で当サイトを紹介するなど管内住民に周知する予定である。

また、年代によって災害時対応や健康の情報を得る方法が異なってきている。今後もそれぞれの年代が使うことが多い検索ワードを本文中に入れるなど、必要な方に情報を届けられるようウェブサイトを定期的に見直し、必要に応じてリニューアルしていく。

## 2 次年度に向けて

課題別地域保健医療推進プランとして管内の災害対策の強化に向けた取組を進めていたところに、新型コロナウイルス感染症という新たな課題が加わり、健康危機管理の拠点としての保健所の役割が大きく認識される中での取組となった。

発災時、市支援を行う保健所は、3市との平時からの関係づくりが重要であるため、前プランも含めて進めてきたこれまでの取組を踏まえ、健康福祉主管課、防災主管課等との連携を強化するための取組を継続する。この取組を支えるためにも、所内初動体制について、実際の自然災害を通じた実践や訓練を繰り返すことで強化を図る。またウェブサイト「災害に備えた準備を『在宅避難者の衛生・健康管理ガイド』」については上述のとおり、住民への普及を図る。

【図4】『被災時の対応』ウェブサイト例

